



かきつばた 2025



京都市立梅津中学校
令和7年12月19日(金)

特別編 全国学調分析号

文責: 学校長・教務部

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の分析結果

京都市全体の分析結果

京都市教育委員会公表資料より

実施日: 令和7年4月17日(木) + 理科実施日

対象学年: 中学校3学年、義務教育学校9学年

総合支援学校中等部3学年

実施教科: 国語、数学、理科(R7のみ)、生徒質問紙調査

京都市立中学校の平均正答率は、全国平均を国語は0.7ポイント、数学は1.7ポイント上回り、良好な結果となっています。平成26年度以降、国語、数学において全国平均以上になっています。さらに、無回答率が全国平均と同等又は下回る結果となっており、生徒が最後まで諦めずに解答しようと取り組んだ姿勢がうかがえます。

平均正答率・平均IRTスコア・指數

	国語(設問数14問)			数学(設問数15問)			数学(設問数16問)		
	平均正答率	指數	標準偏差	平均正答率	指數	標準偏差	平均IRTスコア	指數	標準偏差
京都市	55% (+0.7%)	101.3	2.8	50% (+1.7%)	103.5	4.2	511 (+8)	101.6	127.4
全国(公立)	54.3%	100.0	2.7	48.3%	100.0	4.2	503	100.0	124.0

※指數…全国(公立)の平均正答率/IRTスコアを100とした場合の京都市平均正答率/IRTスコアの値

※京都市の数値の下の()内は全国値との差

※標準偏差…集団データの平均値から離れ具合(散らばりの度合い)を表す数値。

標準偏差が小さい場合、データのばらつきが少ない(生徒ごとの正答率の差が小さい)ことを意味する。

※さらに詳細な分析は、京都市教育委員会HPに掲載しています

URL <https://www.city.kyoto.lg.jp/kyoiku/page/0000257347.html>

本校各教科の分析結果

<総合結果(国語・数学・理科)>

理科は、概ね全国及び京都府の平均と並ぶ正答数でしたが、国語と数学では平均を若干下回る結果となりました。知識を問う問題や、選択肢の問題は平均並みの正答率ですが、記述式の問題では平均を下回ったり、無解答が増えてしまったりという傾向にありました。その一方で、3教科ともに、「授業で学習した内容は、日常生活や将来に役立つと思うか」という質問に対して、肯定的な回答が、全国及び京都府の平均と同じか、それを上回る値となっており、意欲的に学習に臨む態度が養われつつあります。

国語	全国平均より少し下回った結果となりました。「話すこと・聞くこと」領域の問題に対する正答率が最も全国平均に近く、「書くこと」領域の問題に対する正答率が最も全国平均と差があることから、学習内容をアウトプットする習慣が大切であると考えられます。記述の問題にも積極的に解答をしていく力を付けるためにも、授業内で「書く力」を付ける場面を多く取り入れます。「書く力」は練習すれば必ず身につきます。積極的にチャレンジしていきましょう。	
数学	観点別にみると、「知識・技能」の基本的な知識・技能を問う問題では、平均近くの得点率でしたが、「思考・判断・表現」の結果までの過程を考えたり、考え方を説明したりする問題には、苦手意識を抱えている生徒が多いようです。答えを求めるだけではなく、なぜそうなるのかを「考える」ことに重点を置いた授業内容の改善に取り組んでいきます。また、問題を解く際は、答えを求めるだけでなく、なぜそうなるのかを「考える」ことを意識して学習していきましょう。	
理科	全国平均と比べたときに、知識を問う問題は比較的できていますが、思考を問う問題の正答率が低い傾向にあります。このことから、基本的な問題は多くの生徒ができているが、発展的な問題に粘り強く取り組み正解することのできる生徒が少ない、ということ分かります。このような問題の正答率を上げるためにには、普段の授業から「なぜこのような結果がでるのだろうか」「この実験結果から分かることは何だろうか」といった場面で、間違いを恐れず考えてみる、答えを書いてみる姿勢が大切です。そして、練習問題を解く際は、計算問題や記述問題の多くが思考の問題に当てはまるので、そういう問題にできるだけ挑戦してみましょう。また、そのような課題に挑戦する場面を授業内でも多く取り入れていきます。	

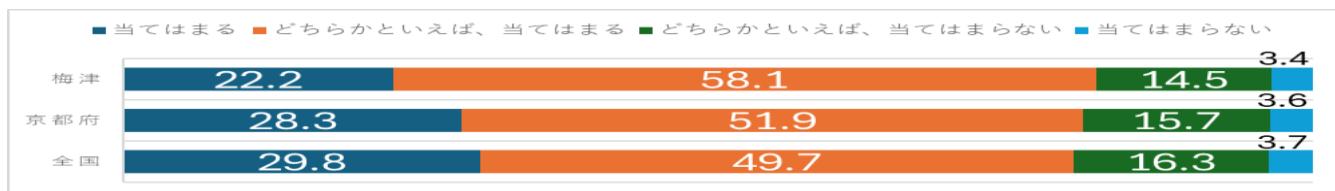
<生徒質問紙調査より>

Q 学校の授業時間以外に、普段(平日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか？(塾や家庭教師なども含む)



授業以外で、1日「2時間以上勉強している」生徒は全国平均と同じ割合でいます。一方、「1時間未満しか勉強していない」または、「全くしていない」生徒が、全国や京都府の平均を上回っています。学力の底上げのためにも、家庭学習を促すような授業や、クラス・学年での取り組みを行っていきます。

Q 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか？



「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒が全国や京都府の平均よりも多いことから、ほとんどの生徒が、総合的な学習の時間に対して、意欲的に取り組んでいることが分かります。また、「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた生徒の問題正答数は、「どちらかといえば、当てはまる」「当てはまらない」と答えた生徒の正答数よりも3ポイント程度上回っていました。探究活動を目的とした総合的な学習の時間は、今年度、全学年でより一層重要視して取り組んでいます。

<全体を通じて>

「授業の内容がよくわかるか」という質問に対して、3教科とも7割以上の生徒が「わかる」というように答えていました。総合的な学習の時間と同様、教科の授業でも、意欲的に取り組んでいる生徒が多いことが伺えます。この学習意欲を、学力向上につなげることが今後の課題です。探究活動を目的とした総合的な学習の時間を、意欲的に取り組んでいる生徒は、教科の学力も向上傾向にあります。教科の授業でも、探究活動の取り入れるなどの授業改善に努めています。

また、「授業中、課題解決に向け、自分で考え、自から取り組んでいるか」「学習内容について、分かった点や、分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができているか」といった「主体性」を問う質問では、全国や京都府の平均を下回っていました。生徒自身も受け身の学習ではなく、主体的に学習に取り組むことが求められますし、生徒がそのように学習に取り組めるような、授業の工夫やクラスの雰囲気づくりを学校全体として行っています。

<保護者の皆様へ>

この調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばしたり、課題を解決したりしていくためのものです。結果が学力のすべてを表しているのではなく、順位を競うものではありません。学力は、学校・家庭・地域での地道な積み重ねにより定着していくものであり、望ましい生活習慣や日々の学習習慣がその基盤となります。今回の本校の結果は、決して満足できるものではありません。しかし、子どもたちの学習に対する意欲は着実に向上しており、ご家庭での子どもに対する積極的な関わりや指導・支援の成果が表れています。引き続き、子どもたちの健やかな育ちと学びの環境づくりにご協力をお願いいたします。

以上の結果を真摯に受け止め、今後の課題とともに、梅津中学校をさらに良い学校にすべく、教職員一同取り組んでまいりますので、これからもご理解・ご協力をお願いいたします。